

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

人・物・情報・まちが繋がる産業交流拠点都市づくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県、延岡市、門川町

3 地域再生計画の区域

延岡市の全域及び宮崎県東臼杵郡門川町の区域の一部

4 地域再生計画の目標

延岡市は、県北地域における教育文化・産業経済の中心としての役割を担ってきており、大正12年の日豊本線開通により宮崎県北地域における物産の集散地としての経済的地位を確立するとともに、同年、旭化成（株）の前身である日本窒素肥料（株）延岡工場が建設されたことに伴い、東九州随一の工業集積地として発展を遂げてきた。

しかしながら、雇用情勢や個人消費も低迷するなど、厳しい経済情勢が続いており、都市の活力の低下が懸念されている。そのほか、高速道路の未整備というハンディキャップのみならず、他地域との交流基盤として重要な役割を果たす国道や県道、市内幹線道路についても交通ネットワークとして機能するには至っておらず、宮崎・大分・熊本の間地点という地理的優位性を活かしきれていない現状がある。

また、延岡市の農業は稲作中心の兼業農家が多く、専業農家の大半は稲作と畜産を主体とした複合経営となっている。また、経営耕地面積は50アール未満の農家が半数以上と零細な経営体が多く、中山間地域にあっては、狭あいな農地や傾斜地が多いことから、生産効率の低い農業が営まれている。

さらに、農業者の急速な高齢化と野生鳥獣の被害等による営農意欲の低下が進んでいるため、遊休農地の発生防止と解消に努めるとともに、集落営農の取り組みをはじめとする担い手の確保対策が急務となっている。

また、林業においても従来からの木材価格の低迷により経営意欲が減退し、林業従事者の減少や高齢化、後継者の不足等が大きな課題となっており、これらの問題を解消するため、広範囲で森林の管理を行い、コスト削減を行うとともに、特用林産物などの生産による経営の多角化等にも取り組む必要がある。

このような中、延岡市では、高速道路網の整備が目に見えて進んできており、今後は国内外の社会情勢の著しい変化に伴い、人・物・情報の往来の活発化を通して交流人口の拡大を図り、地域の活性化を高めいく必要がある。

そのため、今以上に個性的で豊かな延岡の再生と創造をめざし、「交流拠点づくり」、「産業拠点づくり」、「交通ネットワークづくり」という三つの基本目標のもと、大学を

活かしたまちづくりやアスリートタウンづくり、クリアパーク延岡の整備充実と企業誘致の推進、道路ネットワーク機能の強化等、活力ある地域づくり施策に取組み「人・物・情報・まちが繋がる産業交流拠点都市」の実現を図っていくこととする。

門川町は、宮崎県北部に位置し、北は延岡市、南は日向市、西は美郷町に接し、東に日向灘を臨む町である。人口は、平成12年の19,287人をピークに減少傾向にあるものの、門川町は人口約13万人の延岡市、約6万人の日向市との間に位置していることから、両市からの人口流入等によって今日までおよそ30年間微増・微減を繰り返しており、平成22年7月1日現在18,844人である。

社会資本整備においては、東九州自動車道門川～日向間が平成22年12月に開通したところであるが全線開通には至っておらず、また他地域への物流基盤である国道や県道、町内幹線道も交通ネットワークとしては不十分であるため、延岡市及び日向市と日常生活において深い関わりを持っていながらも、両市へのアクセスが困難な状況である。このため、営農団地内の基幹となる農道及び隣接する町道を一体的に整備することにより、農地と集出荷施設、加工施設等を結ぶ、都市と都市、都市と中山間を結ぶ道路のアクセス改善を行い、農業生産性の向上及び農林水産物流通の合理化を図る。

さらには、工業製品等の物流の改善も図りながら、「人・モノ・情報・まちが繋がる産業交流拠点都市」を目指し、農林水産業の振興、商工業の振興、企業誘致に繋がるような道路ネットワークの強化に取り組み、新たな産業交流拠点都市の実現を図っていくこととする。

(1) 産業交流拠点づくり

当地域（延岡市・門川町）は平成6年に近隣の7市町村とともに「宮崎県北地方拠点都市地域」に指定され、地域のポテンシャルを活用しながら、新たな産業システムや都市機能等の整備に取り組んでおり、工業団地ゾーンや学術・研究ゾーンを配置した大規模複合産業団地「クリアパーク延岡」や、誘致企業推進のため門川町「竹名工業団地」の整備を進めている。

学術・研究ゾーンには、平成11年4月に、交流拠点施設として「九州保健福祉大学」（3学部9学科定員570名）が公私協力方式により開学した。開学後は、約2千名の学生による定住人口の増加や多くの経済効果がもたらされているほか、学会・シンポジウムの開催による交流人口の増加など、まちの活性化の動きが見受けられる。

今後は、先進の医療機器産業が集積する当地域の特性を活かし、産学官連携による研究開発や新産業創出に取り組むなど、大学を活かしたまちづくりを推進していく。

併せて、魅力ある地域づくりを進めるため、江戸時代からの歴史・文化を活かしたまちづくりや、数多くのオリンピック選手を輩出したアスリートタウンとしてのまちづくりを進め、交流人口の拡大を図る取組も進めていく。

また、当地域の農業については、経営耕地面積が年々減少しており、農地法等の適正運用により優良農地を確保するとともに、ほ場整備や農用地の利用集積等により、生産コストの縮減を図る必要がある。

しかし、安定した農業生産を支えるために重要な役割を果たしている、ため池、頭首工、用排水路などの施設が老朽化しており、これらの機能を将来にわたり持続させるためには、効率的で適正な維持管理や計画的な更新を行うとともに、農畜産物の輸送の迅速化や低コスト化を図るために農道整備が不可欠となっている。

次に、林業については全国的に林業経営が低迷する中、当地域においても木材価格の低下や担い手不足により林業経営は低迷を続けており、林家のほとんどが保有山林面積5ha未満と小規模であるため、林業としての経営は大変厳しい状況となっている。

しかし反面木材は、近年地球温暖化防止に貢献するために、化石資源の代替エネルギーとして期待されており、これに関連して当地域内にも門川町内に木質バイオマス工場、延岡市内に木質バイオマス発電施設の整備が進められ、今後の利用拡大が大いに注目されているところである。

このようなことから、低コストの林業を確立し安定した林業経営を維持するためにも高性能機械の導入等を推進するとともに、その基盤となる林道や作業道及び販路拡大を進めるための広域農道や幹線市道の整備を図る必要がある。

また、農林業については「儲かる農林業」を目指し、当地域の特性にあった高品質の少量多品目農産物の生産と「空飛ぶ新玉ねぎ」に代表されるようなブランド化を促進し、その販路拡大や地場産品直売所などの販売拠点施設を活かした販売体制づくりを進めていく。

(2) 県北交通ネットワークづくり

当地域（延岡市・門川町）では、南北に縦断する国道10号（宮崎市・大分市に通じる）と、東西に横断する国道218号（高千穂町・熊本県方面に通じる）が基幹道路である。

平成22年2月の延岡南道路開通や平成17年4月の延岡道路及び平成20年4月における北方延岡道路の一部区間の開通など、それぞれの区間が国道のバイパスとして整備が進み、また、延岡南道路については平成22年6月から無料化社会実験の対象路線となるなど、並行する一般国道の慢性的渋滞が大きく緩和された状況にある。しかしながら、人・物・情報の交流の促進をめざす当地域にとっては、高速道路にアクセスする一般国道や幹線地方道路等の更なるネットワークの構築が喫緊の課題となっている。

そのため、現在、当地域を南北に縦断する形で建設中である広域農道と幹線市道、基幹林道等を一体的に整備することにより、農林業の近代化及び農畜林産物輸送の合理化、農山村環境の改善を図るとともに、地域内幹線道路の渋滞の解消や、広域農道に近接す

る大学・高等学校への通学路の確保、地域内各地から延岡ジャンクション・インターチェンジ、日向インターチェンジ、西階運動公園、県立延岡病院等の公共施設にリンクする道路ネットワーク機能の強化を図り、安全で快適な生活都市を構築していく。

(目標1) 交流人口の増大

- ・合宿・イベント・コンベンション等による交流人口：500,000人→550,000人

(目標2) 企業誘致の推進

- ・企業立地促進条例の適用による指定工場等数：105工場→127工場
- ・域内誘致企業の製品出荷量：5%増加

(目標3) 工業製品・農林産物輸送の合理化

- ・延岡市から門川・日向地区の輸送基地移動時間短縮
：現状2時間→目標1時間50分
- ・門川町内各地から日向インターチェンジへのアクセス時間短縮
：現状35分→目標25分

(目標4) 門川町内から延岡ジャンクション・インターチェンジやクリアパーク延岡、九州保健福祉大学等へのアクセス改善

- ・門川町内からIC等への時間短縮：現状30分→目標25分

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

当地域では、宮崎・熊本・大分の中間地点という地理的優位性を最大限生かしながら「人・物・情報・町が繋がる産業交流拠点都市」の構築をめざし、以下の事業を総合的かつ一体的に実施する。

まず、道整備交付金を活用する事業として、広域農道沿海北部地区は昭和53年に策定された広域営農団地整備計画に位置付けられた基幹的農道で(昭和58年事業計画策定)、日向市塩見から延岡市大峽までの全延長30kmを整備するものである。このうち、延岡市伊形町区間及び上伊形町から東臼杵郡門川町との市町境までの区間の延長、1,620mと門川区間である中山地区、竹名地区、中村地区の延長2,341mを、沿海北部地区として整備する。広域農道は、延岡市の西環状線としての機能を有することから、延岡市西部に位置する工業団地や運動公園、東九州自動車道へのアクセス時間が短縮される。また、門川区間は、接続する町道として竹名淀原線200mを一体的に整備することにより、近年開通が期待される東九州道宮崎方面へのICである日向ICへのアクセス時間が短縮され、農林水産物の輸送の合理化を図るとともに、竹名工業団地内の工業製品輸送が大幅に改善される。

次に、平成21年に五ヶ瀬川森林整備計画に記載された林道「鑑・上赤線」・「可愛岳

線」・「下鹿川・上鹿川線」・「須田の本線」の開設、「鏡・上赤線」・「俵野・黒原線」の舗装を実施することで、安全な通行の確保だけでなく、森林へのアクセス改善により高性能林業機械の導入が可能となることで、木材生産コストの低減化を図ることができ、さらには、延岡市北部及び西部に位置する農山村地域の交流や中心市街地との交流としての重要なアクセス機能を果たすこともできる。また、広域農道を利用することにより、広域農道に隣接する日向地区の木材市場や門川町内の木質バイオマス工場、あるいは農林産物輸送基地である日向細島港への搬出時間の短縮を図ることができ、「儲かる農林業」への効果が期待できる。

(5—2) 法第五章の特別の措置を適用して行う事業 道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市町村道：道路法に規定する市・町道として下記のとおり道路認定済み。
 - ①竹名淀原線（平成15年3月31日道路認定）
- ・広域農道：事業計画については土地改良法に基づく手続きを行い、昭和58年8月13日に確定している。
 - ①沿海北部地区
- ・林道：森林法による五ヶ瀬川地域森林計画に路線を記載。
 - ①鏡・上赤線（平成21年3月樹立）
 - ②可愛岳線（平成21年3月樹立）
 - ③下鹿川・上鹿川線（平成21年3月樹立）
 - ④須田の本線（平成21年3月樹立）
 - ⑤俵野・黒原線（平成21年3月樹立）

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- ・市町村道（門川町）門川町
- ・広域農道（延岡市・門川町）、宮崎県
- ・林道（延岡市）、宮崎県、延岡市

[事業期間]

- ・市町村道（平成24～27年度）
- ・広域農道（平成23～27年度）
- ・林道（平成23～27年度）

[整備量及び事業費]

・市町村道 2 0 0 m ・広域農道 3, 9 6 1 m ・林 道 1 1, 4 0 1 m

・総事業費

市町村道 80,000千円 (うち交付金 40,000千円)

広域農道 5,128,000千円 (うち交付金 2,564,000千円)

林 道 1,267,835千円 (うち交付金 633,917千円)

合 計 6,475,835千円 (うち交付金 3,237,917千円)

(5-3) その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか「人・物・情報・まちが繋がる産業交流拠点都市」の構築を目指し、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

① 大学を活かしたまちづくり

延岡市は、九州保健福祉大学（3学部9学科定員570名）は地域づくりの核となる施設として公私協力方式により誘致したものであるが、今後、大学の人的資源を活用し福祉先進都市づくりを進める。

② 広域的な地域づくりの推進

延岡市・門川町は宮崎県北部広域行政事務組合のふるさと市町村圏基金を活用しながら、広域的な地域づくりを推進するとともに、宮崎県北地方拠点都市地域の基本計画に基づく広域事業を展開する。

③ 工業の振興

延岡市・門川町は大規模産業複合団地「クレアパーク延岡」の建設による高度な産業拠点の形成を目指すとともに、「竹名工業団地」への企業誘致に努める。

④ 農林業の振興

延岡市・門川町は競争力のある農業経営の確立を図るため、消費者の品質・安全志向に対応した高品質農畜産物の生産・流通・販売体制づくりを進めるとともに、林産物の生産コスト低減を図るため、高性能機械の導入を推進し、魅力ある林業経営の確立を目指す。

⑤ 関連する市町道網の整備

農林産物の販路拡大や高速道路の供用開始に伴う交通量の増加に対応するため、延岡JCT・ICへのアクセス道路となる幹線市道の整備促進や、その他の市町道の整備も継続して行う。

6 計画期間

平成23年度～平成27年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、事業完了後の供用開始後に数値目標達成の評価を行い、延岡市・門川町において結果を公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし